

平成30年度 羽島市 あったかい 言葉かけ運動

「ぼくは一緒に歩いて帰ろうと思った」

ある日、息子の友達のお母さん達と学校へ夏休みの作品展を見に行った時のこと、下校時刻が迫ってきたので1年生の娘と4年生の息子をそのまま車に乗せ「暑いだろうから」と帰ろうと思っていました。が、息子の友達が呼びに行ってくれて、歩いて暑い中下校を始めた息子。車で先回りして待っていると、一人で歩いて自宅の近くまで来ていました。「どうして一緒に車で帰らなかったの？何か事情があったの？」と尋ねると「一年生の子が一人になったら心配だったから、僕は一緒に歩いて帰ろうと思ったの」と息子。真っ赤な顔が逞しく頼もしく見え、嬉しくて親として誇らしかった一言です。

保護者

「それは0.5/70 位の悩みなんだよ」

私が応援リーダーに立ち上がるころ迷ったとき、私はお母さんにすべきか相談しました。すると、お母さんは「70年生きたら1年は1/70。むずかしいことがあってもそれは0.5/70にも満たないくらいの悩みなんだよ」と私に優しく言ってくれました。私はこの言葉のおかげでやる気が出たし、これはほんの少しのことで、20年後には、はずかしいことも忘れていくんじゃないかと思って、その言葉で悩みがらふって飛んで心がほかほかしました。

児童

「大丈夫だよ」

子ども達は、小さい時から病気がかりしていた。「大丈夫。大丈夫。すぐに治るよ。」と声をかけていた。私達親が病気になった時、誰も教えていないのに、子ども達は「大丈夫。早く良くなってね。」とそばに来て手をにぎってくれる。とっても優しい言葉で、小さな小さな手をギュッとしてくれる。自然に言葉に出てくる優しいさ。これから誰に対しても、どんな場面でも、思いやりの心を忘れないで欲しいと感じました。

保護者

「大丈夫。」

テスト勉強で落ち込んだとき、いつも母やおばあちゃんが、かけてくれる言葉です。もう無理と思った時に、その言葉をかけてくれると、なんだか元気が出てきます。体がポカポカして、笑顔になります。だから、自分も人の心をあったかくさせたり、元気つけたりするために「大丈夫。」の言葉をたくさん使いたいです。

生徒

「いっしょに探そ」

友達と遊んでいるときに、1人の友達が自転車のカギをなくしてしまって、その子はみんなに「大じょうぶ」といったけど、みんなは「いっしょに探そ」と言ってみんなで探しました。でも、カギはみつかりませんでした。

私は、みんなが友達のためにいっしょけんめいすることがすごいなと思ったし、私もみんなみたいに優しく思いやりのあることをしたいなと思いました。

児童

「また明日ね！」

「また明日ね！」帰りに友達と交わす言葉。私はその言葉がとても大好きです。理由は「また明日みんなに会えるんだ！」と思うと、すごく嬉しい気持ちになれるからです。そして、この言葉があるだけで私達はつながっていられる気がするからです。私にとっては、今までも、そしてこれからもずっと魔法の言葉です。

生徒

「あなたの飲む珈琲が・・・」

同じ職場（カフェ）で働いている母と私。仕事でも、親子だからこそ、つい口調や態度が厳しくなる母に、私は大人になってからも心のどこかで「必要とされていないのでは？」「愛されていないのでは？」と感じることがありました。そんなある日、母といつものように仕事の合間のお茶タイムで言ってくれた母のひと言が『あなたと飲む珈琲が一番美味しいわ!!』その何気ないひと言で、私の心は満たされていきました。忙しい日々で、身近で大切な家族ほど、後回しにしてしまう愛の言葉。口に出すことでその言葉は御守りとなり、相手と自分自身もあつためてくれます。この日、私も娘に優しくなれました。ありがとうございます。

保護者

「〇〇さんすごいですよ！」

うちに帰ってくると、学校の話がたくさんしてくれます。クラスのお友達の話題はいつも「〇〇さんて、足がすごく速いんだよ！」「〇〇さんて、こういうところがおもしろいんだよ！」「〇〇さんの絵、上手だよ！」といった所を見つけて教えてくれるので、学校の話や話を聞くと、こちらも楽しい気持ちになります。

保護者

「がんばれ」

ぼくは体育の授業などに使う「がんばれ」という言葉がとても不思議に思います。理由は、つかれていたり、あきらめかけている時に、「がんばれ」と言われると「もう少しだけがんばろう」などと、力がよみがえってきて、勇気が出ます。そんな「言葉」は、不思議な力をもっています。これから「言葉」を大事にしていきたいです。

児童

「おかあさん、おしごとおつかれさま」

今、小学2年生、当時小学1年生の息子が私にかけてくれた言葉です。どんな状況の時だったのか記憶はあいまいですが、きっと私が疲れた顔をしていた時に出てきた言葉だと思います。そんなねぎらいの言葉を知っていたことに驚いたのと、子どもなりに親のたいへんさを感じているのだなと思い、我が子に感心し、また心があつたくなりました。

保護者

「無理しないでいいからね。」

この言葉は、私が体調不良で休んだ次の日に担任の先生が言ってくださった言葉です。先生は「もちろん体調もだけど、学級の中でもみんなのために頑張ってくれているから、何かあったらすぐに言ってね。」と優しく声をかけてくださいました。家族に相談することもあるけれど、担任の先生が優しく手をさしのべてくれて、本当にほっとしました。私もそんな人になれるといいなと思います。

生徒